

平成 30 年度いたばし景観写真展～板橋宿不動通りと江戸四宿～

中山道第一の宿場町としての歴史を有する板橋宿不動通り地区の景観まちづくりの取り組みを紹介するパネル展「平成 30 年度いたばし景観写真展～板橋宿不動通りと江戸四宿～」が 2 月 18 日(月)から 2 月 22 日(金)まで、区役所 1 階区民イベントスペースで開催された。

板橋区は、景観行政団体として、良好な景観形成の実現に向けた総合的・複合的な景観形成施策を実施・展開するとともに、区民をはじめとする関係者が、連携して良好な景観形成に取り組むことをめざし、平成 23 年 8 月に「板橋区景観計画」を策定。本計画では、景観計画区域を「一般地域」と、特に地区特性を生かした良好な景観の形成を図る必要があると認める「景観形成重点地区」の 2 つの区域に区分している。景観形成重点地区では、地区独自の景観に関するルールを定め、地区ごとの特性を生かした良好な景観の形成を図ることを目的としており、現在 4 地区(板橋崖線軸地区、石神井川軸地区、加賀一・二丁目地区、常盤台一丁目・二丁目地区)が指定されている。そのほか、今後の追加指定候補として 2 地区が挙げられており、順次地域のまちづくりの機運などを踏まえて指定に向けた取り組みを行っていくこととなっている。

「板橋宿不動通り地区」では、平成 27 年に無電柱化工事が完了、快適な歩行空間と青空が印象的な商店街の景観が創出される一方で、空き店舗が点在し、マンションへの建て替えが進むなど、まちの面影が失われつつあった。このため、平成 29 年度～平成 30 年度にかけて、商店街や地域に住む方々が勉強会やワークショップ等を重ねて、めざしたい将来のまちの景観の方向性として『ちょっと寄ってって 板橋宿』を掲げた。さらに、建物や広告などのルールの検討を行い、「景観まちづくりプラン」としてまとめた。今回のパネル展は、板橋宿不動通り地区におけるこの 2 年間の取り組みの集大成として、これまでの活動や検討内容を紹介するとともに、これを機に江戸四宿(品川宿・千住宿・内藤新宿・板橋宿)間で新たな交流や連携が生まれ、かつての賑わいを取り戻すきっかけになればという想いを込めて企画されたもの。

会場では江戸四宿それぞれの宿場町の歴史や、板橋宿不動通り地区の街並み、景観まちづくりプラン検討の過程をパネルで紹介。さらに、明治 43 年に創業し、一昨年惜しまれながら営業を終えた老舗の銭湯「花の湯」で使用されていた鬼瓦や破風彫刻(懸魚(げぎょ))を特別に展示。会場を訪れた方は板橋宿不動通り地区の歩みや、板橋宿不動通り商店街の真ん中で変遷を見守り続けてきた「花の湯」の遺産に触れ、まちの歴史を懐古すると同時に、今後魅力を増していくまちの将来に期待感を抱いているようだった。

平成 30 年度いたばし景観写真展～板橋崖線～

板橋区を東西に横断する緑豊かな武蔵野台地の崖線「板橋崖線(がいせん)」にまつわる景観の取り組み等を紹介するパネル展「平成 30 年度いたばし景観写真展～板橋崖線～」が 3 月 11 日(月)から 3 月 27 日(水)まで、赤塚支所 1 階の赤塚支所ギャラリーで開催された。

板橋区は、景観行政団体として、良好な景観形成の実現に向けた総合的・複合的な景観形成施策を実施・展開するとともに、区民をはじめとする関係者が、連携して良好な景観形成に取り組むことをめざし、平成 23 年 8 月に「板橋区景観計画」を策定。本計画では、景観計画区域を「一般地域」と、特に地区特性を生かした良好な景観の形成を図る必要があると認める「景観形成重点地区」の 2 つの区域に区分している。景観形成重点地区では、地区独自の景観に関するルールを定め、地区ごとの特性を生かした良好な景観の形成を図ることを目的としており、現在 4 地区(板橋崖線軸地区、石神井川軸地区、加賀一・二丁目地区、常盤台一丁目・二丁目地区)が指定されている。

荒川と多摩川にはさまれた武蔵野台地の北東端付近に位置する板橋区の地形は、平均海拔 30m 前後の武蔵野台地と海拔 10m 以下の荒川の沖積低地で形成されており、区の面積の 4 分の 3 が台地上にある。東京都では城北から都心を通り城南に至る武蔵野台地東端の崖線に沿った緑の多い景観軸を「南北崖線軸」と位置づけており、「板橋崖線」はその一部を成している。

板橋崖線とその周辺地域には、起伏に富んだ「坂道」、緑豊かな「樹林地」、「湧水」などの自然環境や板橋十景に選定されている赤塚公園や徳丸・赤塚の田遊び、松月院など多くの歴史・文化的資源がある。こうした自然や文化、歴史を尊重するとともに、崖線という地形的特徴を踏まえ、崖線の緑に違和感なくとけ込むような落ち着いた街並みをめざし、景観形成重点地区「板橋崖線軸地区」では(1)崖線の眺望、崖線からの見晴らしを守り、生かした景観の形成、(2)四季の彩りを生かし、崖線の緑と調和・連続した景観の形成、(3)水と緑のうるおいのある景観の形成、(4)歴史・文化的資源を生かした、風情のある景観の形成の 4 つを基本方針としている。

今回のパネル展は板橋崖線の持つ魅力をより多くの方に知っていただくとともに、これを機にそこで暮らす人々の営み、歴史、文化を今に伝えていきたいという想いを込めて企画されたもの。会場では板橋崖線にまつわる景観をはじめ、歴史、文化、観光等の視点も取り入れたパネルを展示。さらに、壁一面を使い、空から見た板橋崖線を一望できる巨大航空写真パネルが出現するなど、工夫をこらした内容となっている。

